

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
地域とともにある学校づくり	(全校レベル) I) 地域と連携した教育活動の推進 <下位組織レベル> ①特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のニーズに対応したセンター的機能を発揮し、地域とともにある学校づくりを推進する。	評価指標 ①-1 特別支援教育巡回相談員活動において、地域（主に阿南市内）からの依頼に対して計画的に対応する。	評価指標の達成度 ①-1 地域の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校からの依頼に対して、月に1～2回の出張を計画していたが、地域からの強い要望や緊急性のある相談について、依頼を追加で受ける状況が何度あった。	(評定) 総合評価 B (所見) ①「特別支援教育地域まるごと専門性向上事業」として公開研修会を実施した。実施2ヶ月前より広報を行ったことで、校内外から多くの参加者があった。実施後アンケートでは、「日頃のかかり方を見直すきっかけになった」、「自尊感情について理解を深めることができた」、「明日からの実践にいかすことができる内容であった」等の意見があった。8月末の実施だったこともあり、夏季休業明けのモチベーション向上の一助になったと思われる。巡回相談では、相談依頼の要望は依然として多い状況が続いている。不登校や校内暴力等、緊急性の高い相談では、対象児童生徒の担任や担当者が本校に來校する求校相談で対応した。また、今年度から交流及び共同学習が再開し、事前学習のゲストティーチャーとして本校相談員を活用するといったケースもみられた。地域における研修での講師や阿南市特別支援教育連携協議会への参加についても引き続き行うことができた。	別紙 ①公開研修会については、校外への広報が功を奏し、多くの参加者があった。今年度はその中の一部の方から意見を伺うことができたが、次年度は校外参加者からも多くの意見及び感想等を聴取できるような方を検討したい。今年度、巡回相談員は3名体制で活動を実施したが、今後も校内体制を整備し、地域からの相談ニーズにより対応できるようにしたい。
		①-2 地域の教員や県内の特別支援学校の教員対象の公開研修会を実施する。	①-2 昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和先生を講師とし、公開研修会を実施した。参加者数198名（校外123名、校内75名）で、子どもに寄り添い、自尊感情を育むかわりについて学ぶことができた。		
		①-3 阿南市特別支援連携協議会に年間3回以上参加し、地域との連携を深める。	①-3 年度初めや年度終わりにあるワーキンググループでの会議に参加した。また阿南市特別支援教育連携協議会の運営の面でも、市教育委員会や校種別担当校と連携を図ることができた。		
		活動計画 ①-1 年度当初に巡回相談員による広報活動において、地域に対して本校のセンター的機能の周知を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 市役所の各種担当部署、保健センター等関係諸機関や幼稚園園長会、保育所主任会、小学校中学校教育研究会に参加し、本校の相談活動について広報活動を行った。		
		①-2 公開研修会の実施にあたり、案内チラシの配付及び本校ホームページにおいて広報を積極的に行う。	①-2 6月下旬に案内文書を配付するとともに本校ホームページにおいて周知を行った。広報の成果として、校外からの参加者が123名であった。		
		①-3 阿南市特別支援教育連携協議会開催時に、校内で授業等の調整を行い、巡回相談員が参加できるように対応する。	①-3 阿南市特別支援教育連携協議会開催時、毎回3人すべての相談員が参加することは難しかったが、校内での授業調整を行い、少なくとも2名の相談員が参加できるように対応した。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
地域とともにある学校づくり	(全校レベル) III) コミュニティスクール制度を軸とした学校運営 ①学校運営協議会を学校運営の中核に据え、学校の教育活動等に反映させることができる。	評価指標 ① 学校運営協議会の規定に沿って計画・実行・改善を行うことができる。	評価指標の達成度 ① 学校運営協議会の規定に沿って、年間3回の計画と実施ができた。また、次年度以降の協議会の在り方について検討し、次年度は委員を一人増やすことができるようになった。	(評定) 総合評価 B (所見) ① 学校運営協議会を学校運営の中核に据え、学校の教育活動等に反映させることができた。また、年間3回以上実施し、熟議を行うことによって、委員の意見や提言等を教育活動等に反映させることができた。	別紙 ①次年度は学校運営協議会の規定に沿って、委員を7名とする。また、熟議の内容についても、今年度は地域連携や学校の取り組みの紹介等にとどまったが、次年度は、学校の課題に沿った内容について熟議を行う。
		活動計画 ① 学校運営協議会を年間3回計画し、熟議を行うことができる。	活動計画の実施状況 ① 7月、9月、2月の年間3回学校運営協議会実施することができた。提案いただいたことをもとに、学校の教育活動に反映することができたり、次年度以降の取組への協議をすることができたりした。		

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった